

占冠村長選挙・占冠村議会議員補欠選挙 田中新村長誕生！ 村議補選は立候補なし



任意満了に伴う占冠村長選挙及び村議会議員辞職に伴う占冠村議会議員補欠選挙が、8月22日告示されました。

村長選挙は告示日において、田中正治さんが無投票当選しました。

同日コミュニティプラザで村長選挙報告集会が開催され、沿線首長をはじめ、多くの村民が祝いにかけつけました。

なお、村議会議員補欠選挙は、立候補届出がなく、平成31年4月の改選期まで欠員のまま村議会が運営されます。

8月28日、占冠村総合センターにおいて、村長選挙当選証書が山崎選挙管理委員会委員長より手渡されました。

村長就任のごあいさつ 占冠村長 田中 正治

すべての村民が報われる
村づくりをめざして



このたびの占冠村長選挙におきまして、村民の皆様方の暖かいご支援により、無投票当選の栄を与您にいただき厚くお礼申し上げます。9月6日就任来、その職責の重さを感じながら、毎日元気に職務に励んでおります。

私は立候補の際、村政執行の基本を、すべての村民が報われる社会をめざし、「生まれて良かった」「育つて良かった」「暮らして良かった」そして住み続けたいと思える村づくりを念頭に、3つの基本的な考えを申し述べました。

1つ目は持続可能な地域づくりとして、経済循環が活発な社会、移住・定住・起業が考えられる社会、それぞれの特性を活かした集落づくりを進

め、働く方々の汗が報われる村づくりであります。

2つ目は安全で安心な暮らしを守る基盤づくりとして、医療と福祉、交通、防災など生活インフラの拡充とポランティアなどを含めた地域協働による、安心して暮らせる村づくりであります。

3つ目は未来を託す子どもの環境づくりとして、子育て家族が安心して働ける環境整備、時代のニーズに寄り添った教育環境の整備充実、平和や国際感覚を体験できる教育など、子どもたちがいきいきと学び、郷土を自慢できる村づくりであります。

子どもたちの声が聞こえれば父母がいて、祖父母がいて、多くの大人が集まり賑やかになる。そんな風景を創りたいと考えています。

私自身の力は微力ではありますが、村民の皆さんのご意見をいただきながら、議会議員の方々とも協力し合い、住みよい郷土占冠をつくるため邁進いたしますので、どうかこれからも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

田中村長所信表明

田中村長として初めての議会となる第5回占冠村議会定例会が、9月27日に開かれました。その中で田中村長は、村政執行に対する所信を述べ、基本姿勢を示しました。

I はじめに

平成29年第5回占冠村議会定例会の開催にあたり、村政執行に対する私の所信を申し上げ、村民の皆様並びに村議会議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、このたびの村長選挙におきまして、生まれ育った占冠村のお役に立ちたいとの思いをもつて立候補し、村民の皆様方の温かいご支援を賜り無投票当選の榮に浴し、村政を担当させていただくことになりました。

これまで43年余り行政に携わってまいりましたが、もとより微力であり、先輩、同僚はじめ村議会議員各位のご指導や地域の皆様にて育てられ、貴重な経験をさせていただきました。

この間、本村を取り巻く環境は、平成の大合併を経て自立の道を選択し、地方創生の名のもと自らが考え、進む道を決定していくといった

難しい行政運営が求められてきました。

こうした行政経験を活かし、これからの村づくりにより全力で取り組む覚悟と決意を新たにしているところでございます。

II 村政執行に対する基本姿勢

占冠村は、先人達の強い意志と努力により交通環境をはじめとして社会資本整備が進み、暮らしやすくなつたと感じる一方、まだまだ生活する上で不十分な面も多くあり、様々な問題点を抱えているのも現実だと思っております。

しかし、豊かな自然や農林業、観光資源など、多くの可能性を秘めている地域として注目されている面もあると感じています。

私は村民の皆様方と一緒にこの資源や財産を受け継ぎ、守り育てていくことで、すべての村民が報われ

る社会をめざし、「生まれて良かった」「育つて良かった」「暮らして良かった」「そして住み続けたいと思える村づくりを進めてまいります。

本村には内在する多くの課題もあるかと思いますが、これから村政を執行していくために、次の事項を政策の柱としたいと考えております。

① 持続可能な地域づくり

将来に向かって地域づくりを進める上で農業、林業、観光の基幹産業を中心に、移住、定住、起業などの推進、集落対策を含めた総体の持続性の取組が必要と考えています。

農業においては、新規就農や後継者、Uターン者による営農など新たな展開が期待できる状況にあり必要な支援をしてまいります。

林業においては、すでに取り組んでいる木質バイオマスエネルギーやエゾシカの有効活用、木材の活用、山林にある資源活用を推進するとともに、単に木材を生産販売するだけではなく、目的に応じた木材生産により付加価値を高め販売する林業事業体の育成、資源の持続性を高めるため国有林との連携などを図ってまいります。

